

平城宮跡出土瓦のパソコンによるデータ検索活用システム

平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センター

平城宮跡から出土した考古遺物については、発掘開始20周年にあたる1978年からデータベース化に着手、データの蓄積をはかってきた。これは、国立民族学博物館との共同研究の一環として、従来から利用していたホールソート形式の遺物登録カードをもとに遺物1点ごとのデータを民博の大型計算機に入力したもので、1981年度以降は特定電話回線を設置して研究所側の端末機によって検索する方式をとっている。1982年度までに入力したデータは計量化の比較的容易な軒瓦32,000点、銭貨2,000点である(木簡については別のシステムを採用している)。

しかし、このシステムは民族学博物館に依存する度合いが高く、入力に至るまでの操作が複雑で記入ミスが生じ易く、また整理・登録済み遺物についてすみやかに入力する必要もあるため、1983年度にはパーソナルコンピュータによってデータを直接入力する方式に変更することにした。入力および検索のためのソフトウェアは九段コンピュータサービス(株)に依頼して作製、各遺物について整理終了後直ちにデータを入力する体制を整えた。ハードウェアの構成はNEC パーソナルコンピュータ PC 9801 にディスクユニット PC 9881 およびハードディスクユニット PC98H33 を加えたもので、10万点まで処理可能である。1984年度末には第163次調査までに出土した軒瓦・道具瓦・刻印瓦等のデータ入力を完了、総計41,967点に達した。なお、別に伝送プログラムを作製し、ある程度新規データが蓄わえられた段階で民族学博物館の大型計算機へデータを送る。

個々の遺物については、出土地区・地点、遺物番号、型式番号、遺構番号、出土層位、出土年月日等の情報を入力している。検索は出土地区別・地点別および型式番号別・種別の4通りが可能で、後者の場合は特定の地区内だけでも検索できる。

丸・平瓦についてもデータベース化を進めているが、出土量が尠大なうえ破片のため全形を知り得ない資料が多く、分類し数量化するための規準を確定する作業を先行させなければならない。奈良山丘陵にある平城宮瓦窯群出土品を中心に胎土分析を行っているが、この成果も組み込んで効率の良いシステムを検討中である。また、筑波大学情報処理センターに依頼して、統計処理した結果をドットマップ等の方法で表示するシステムも開発中である。(山本忠尚)

型式 (T6313D)		型式別検索一覧表		頁. 1	
区	地点	件数			
6AAB	UN48	1	6AA0 Q878	1	6ACU ER40 1
6AAB	UN49	1	6AAP KA07	1	6ALF PD84 1
6AAC	BE04	1	6AAP KD08	1	6ALF P191 1
6AAC	BH05	4	6AAP KF05	1	6ALF P193 1
6AAC	DO23	1	6AAP MA30	2	6ALR TQ41 1
6AAG	JA47	1	6ABD DG14	1	型式合計 24
6AAG	JO47	2	6ACU ER37	1	合計 41967

型式別検索結果 (6313D 型式)